

道元禅師どうげんぜんじの著しょうされた『正法眼蔵しょうぼうげんそう』の中に、「菩提薩埵四摂法ぼだいさったししょうぼう（ぼだいさったししょうぼう）」という巻まきがあります。『正法眼蔵』の多くは、修行僧のために書かれたのですが、この巻は、一般の信者のために書かれたものだと考えられています。ということは、まさしくこの巻は、私たちのために道元禅師がお示しになっているのです。

「菩提薩埵四摂法ぼだいさったししょうぼう」の巻には、菩薩ぼさつが生きとし生けるもののために行う四つの行といが説かれています。

菩薩ぼさつとは、観世音菩薩かんぜおんぼさつや地蔵菩薩じそうぼさつに代表される仏さまのことで、悟りの世界から人間界に降りて来て、人々と喜びや悲しみ、苦しみを共にしながら、救済きゅうさいに努める仏さまのことです。人びとを救済するための菩薩の行いが、「布施ふせ・愛語あいご・利行りぎょう・同事どうじ」の四つなのです。

本日はその中の三番目、「利行りぎょう」についてのお話です。

利行とは、漢字で利益の「利」に行いの「行」と書きます。

利行について道元禅師は、

「利行りぎょうとは、人々の利益になるように手立ててだを廻らすことである。その時、恩返しめぐをしてもらうことを期待してはならない。ただただ、利行を旨むねとしてそれを行いなさい。」と説かれます。

人々の利益のために尽くしなさい。けれども、恩返しを期待してはならない。誰でも少なからずは、人のためにこんなに良いことをしたのだから、自分にも良いことがあるだろうと、心の片隅かたすみに浮かんでくることもあるかもしれない。しかし、そうではなく、ただただ利行を中心に行うのだ。と道元禅師はいまし戒めます。

さらに道元禅師は注意うながを促します。

「世の中の多くの人々は、他人の利益を先にすると、自分の利益がそれだけ損なわれると思っている。しかし、そうではないのである。利行とはそんなものではない。自分も他人をも超こえた、生きとし生けるものすべてに利益を与えるのである。」

ここでも道元禅師は、私たちの心の中を見透かしたように、目先めさきにある自分の利益ばかりを追ってはいだめだ。利行とはそんなものではない。生きとし生けるものすべてに利益があるのだ。と私たちに力説します。

そして最後にこう説かれます。

「ただひたすらに、愚^{おろ}かなことをしないようにと励^{はげ}むがよい。」

私たちは、つい自分中心に物事を考えがちです。そのことが道元禅師の言われる、“愚かなこと”なのです。

道元禅師の教えをいただいている私たちが、ぜひ実行しなければならない行いの一つが、この「利行」なのです。

— 終 —